

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54001002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	中国文学の世界[P4B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	チュウゴクブンガクノセカイ		
英文授業科目名	World of Chinese Literature		
担当教員名	荒見 泰史		
担当教員名 (フリガナ)	アラミ ヒロシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 7時限,8時限	講義室	総K109
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード			
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第4パッケージ：文化の交流と多様性		
授業の目標・概要等	<p>漢語で表記された中国文学の作品は、経年変化が少ないために長いあいだ親しまれ続け、三千年もの間に膨大な作品数を蓄積しながら今日にまで継承されてきている。そうした作品は同じ漢字を使用するアジア諸国へも深く浸透し、各国の文化へも大きな影響を及ぼしてきた。たとえば、日本においても漢字とともに多くの作品が流入し、古くから漢語の作品が伝えられていることは言うまでもないであろう。ただ、この漢語で表記された作品を鑑賞する場合、中国から見れば外国語話者である我々日本人が作品の真意を汲み取ろうとすれば、漢語をよほど正確に理解しなければならないことについて、注意深く考える者はあまり多くないのではないだろうか。</p> <p>本講義では、このような中国の文学作品をより楽しむために、漢語の特徴や日本語との違いから議論を始め、中国人がどのように文学作品と接してきたか、中国文学がもっている本当の面白さはいったいどのようなものか、そしてこれらの作品がどのように継承されてきたのかという問題について考えていきたいと思う。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 漢語の言語的特徴 (漢語の歴史的継承)</p> <p>第3回 漢語の言語的特徴 (言語の類型論より見た漢語)</p> <p>第4回 漢語の言語的特徴 (漢字)</p> <p>第5回 漢語の言語的特徴 (漢語の認知構造)</p> <p>第6回 漢語の言語的特徴 (漢語の複合語)</p> <p>第7回 漢語の言語的特徴 (和製漢語とその定着)</p> <p>第8回 漢語による文学表現 (孤立語と文学表現)</p> <p>第9回 漢語による文学表現 (音節の豊かさを利用した文学表現)</p> <p>第10回 漢語による文学表現 (音節の持つ豊富なイメージと文学表現)</p> <p>第11回 漢語による文学表現 (漢語による文学作品の隠語表現)</p> <p>第12回 漢語文学の継承 (漢語文学と数千年にわたる継承)</p> <p>第13回 漢語文学の継承 (漢語文学の継承と記録媒体)</p> <p>第14回 漢語文学の継承 (口頭による継承)</p> <p>第15回 漢語文学の継承 (筆写による継承)</p> <p>学期末に試験を実施する。</p>		
教科書・参考書等	授業用冊子『漢語文化論』を教材とする。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	<p>第1回 授業時間中に指示する。</p> <p>第2回 授業時間中に指示する。</p> <p>第3回 授業時間中に指示する。</p> <p>第4回 授業時間中に指示する。</p> <p>第5回 授業時間中に指示する。</p> <p>第6回 授業時間中に指示する。</p> <p>第7回 授業時間中に指示する。</p> <p>第8回 授業時間中に指示する。</p> <p>第9回 授業時間中に指示する。</p> <p>第10回 授業時間中に指示する。</p> <p>第11回 授業時間中に指示する。</p> <p>第12回 授業時間中に指示する。</p>		

予習・復習への アドバイス	第13回 授業時間中に指示する。 第14回 授業時間中に指示する。 第15回 授業時間中に指示する。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	授業への積極性40%程度。 期末試験60%程度。
メッセージ	
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54004002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	文化人類学の世界[P4A,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ブンカジンルイガクノセカイ		
英文授業科目名	World of Cultural Anthropology		
担当教員名	長坂 格		
担当教員名 (フリガナ)	ナガサカ イタル		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 1 時限, 2 時限	講義室	総K110
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、ディスカッション
単位	2	週時間	2
対象学生	1		
授業のキーワード	異文化理解、相対化、フィールドワーク、東南アジア、フィリピン		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	主として担当者による文化人類学的フィールドワーク（現地調査）に依拠し、東南アジア、特にフィリピンの社会・文化を紹介・検討することを通して、文化人類学的視点・方法を論じる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 第2回 文化人類学的視点・方法とは？ 1 第3回 文化人類学的視点・方法とは？ 2 第4回 フィールドワーク 第5回 フィールドとしての東南アジア 第6回 フィールドとしてのフィリピン 第7回 親族 第8回 家族 第9回 ジェンダー 第10回 精霊信仰 第11回 カトリシヅム 第12回 海外移住の拡大 1 第13回 海外移住の拡大 2 第14回 海外移住の拡大 3 第15回 まとめ 期末試験をおこなう他、適宜小レポートなど課題を出す予定である。		
教科書・参考書等	教科書は用いない。参考書等は授業中に指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像（ビデオ/PC/その他画像資料）、WebCT		
予習・復習への アドバイス	配布資料や参考図書などでの予習・復習を授業中に指示する。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	授業へのコメント等提出課題（30%）と期末試験（70%）で評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54006001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	翻訳の文学[P4B,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	ホンヤクノブンガク		
英文授業科目名	Literature in Translation		
担当教員名	武田 紀子		
担当教員名 (フリガナ)	タケダ ノリコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 3 時限, 4 時限	講義室	総K211
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	異文化交流、異文化の共生、国際化、翻訳、表現、文学、言語		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	文学作品に代表される創造的な言語表現が、翻訳を通して異文化交流と国際化の進展に大きく貢献することを再確認する。更に、より良く生きる為の人間の自発的な文化活動の意味と意義を考える。		
授業計画	<p>第1回 プロローグ(「翻訳」と「文学」についての概説)</p> <p>第2回 「翻訳」を要請するアメリカの縦の一行詩を読む。</p> <p>第3回 第2回の続き(更なる縦の詩の読解)</p> <p>第4回 第3回の続き</p> <p>第5回 「翻訳」の起源をめぐる物語を読む。</p> <p>第6回 第5回の続き;「直訳」と「意訳」について</p> <p>第7回 創作とも見なし得る名訳を読む(マザーグースの翻訳を中心に)。</p> <p>第8回 ヤコブソンとパースの翻訳論を基礎として、「翻訳」とは何かを考える。</p> <p>第9回 マザーグースの種々の翻訳を解析し、翻訳が文学にもたらすもの考える。</p> <p>第10回 第9回の続き</p> <p>第11回 第10回の続き</p> <p>第12回 小泉八雲(別名Lafcadio Hearn)の再話を読む。</p> <p>第13回 第12回の続き</p> <p>第14回 翻訳によって開かれる新しい世界について考える。</p> <p>第15回 エピローグ(授業のまとめ)</p> <p>12月に小テストを実施する。</p> <p>授業中に英文テキストやその他配布資料を受講生が各自で読解する時間を多く取るようにし、演習の効果も生じるよう努める。</p>		
教科書・参考書等	授業時に適宜プリント形式の資料を配布する。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料, 音声教材, 映像(ビデオ/DVD/書画カメラで呈示する画像資料)		
予習・復習への アドバイス	アドバイスは、まず最初の授業時に全体的に行い、その後各回において適宜指示する。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	期末試験(60点分)と、小テスト(20点分)と、クイズ(10分程度で行う小テストで授業中に2回実施、各10点計20点分)により評価する。尚、受講生の受講状況によっては、最高点が109点になるまでの加点を行う為第3回目のクイズを実施する可能性もある。		
メッセージ	この授業を通じて、コミュニケーションの第一媒体である言語と、それを国際的に発展させる翻訳の重要性を再確認してください。		
その他	<p>【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】</p> <p>【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内): https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html】</p>		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54007002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	日本の歴史と文化[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	ニホンノレキシトブンカ		
英文授業科目名	Japanese Culture and History		
担当教員名	佐竹 昭		
担当教員名 (フリガナ)	サタケ アキラ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K107
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	異文化交流, アジアのなかの日本, 国際化, 外交史, 歴史意識		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性 日本文化の原型が形成されてきた時期を中心に, アジア・日本をとりまく国際関係の歩み, さらに異文化交流の果たした役割を検討します。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	国際関係の歩みのなかで, 日本文化の原型が形成された古代を主たる素材に, 文献や遺跡・遺物などの資料をもとにどのように歴史像を描いていくのか, その考え方や方法について学ぶ。また現在にとっての古代の意味, 歴史意識についても考える。		
授業計画	第1回 講義のねらい・内容について 第2回 1. 日本列島の形成と日本人のルーツをめぐって (1)日本列島の形成と人々の暮らし 第3回 (2)稲作の伝来と人々の渡来をどう考えるか 第4回 (3)日本人のルーツをめぐる諸説とその現代的背景 第5回 2. 邪馬台国論争から何を学ぶか (1)魏志倭人伝を読む - 邪馬台国の位置をめぐって 第6回 (2)魏志の倭人社会観察 1 第7回 (3)魏志の倭人社会観察 2 第8回 3. 古代東アジアの国際関係と倭国・日本 (1)3世紀, 卑弥呼の時代 第9回 (2)5世紀, 倭の五王の時代 第10回 (3)7世紀, 遣隋使・遣唐使の時代 第11回 (4)古代の国際関係とそれが後世に与えた影響を考える 第12回 4. 文化交流の具体例, 仏教文化の受容 第13回 (1)日本文化史の時期区分 第14回 (2)仏教文化展開の具体像 第15回 まとめ		
教科書・参考書等	21世紀の教養『異文化/I・BNKA』2-1ほか随時紹介する。 資料を配布するとともに, スライド等を用いて講義する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像(PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	第1回 歴史の研究に自然科学はどう生かされているか。 第2回 日本の縄文時代の特徴は何か。 第3回 弥生時代の遺跡・遺物にはどのようなものがあるか。 第4回 弥生時代以降, 大陸から多くの渡来人を想定する根拠は何だろうか。 第5回 邪馬台国の位置をめぐってどうして多くの説があるのだろうか。 第6・7回 倭人の生活についての魏志倭人伝の観察はどれくらい正しいか。 第8回 国際関係と国内政治の関係について, 後世の例も含めて考える。 第9回 冊封体制とはどのような国際的枠組みか。 第10・11回倭国・日本と隋・唐との関係はそれまでの時代とどう違うのか。 第12回 日本文化史の時期区分はどのようになされているか。 第13・14回 法隆寺や薬師寺をめぐる諸問題を考えてみよう。 第15回 授業の内容を再整理してみよう。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	定期試験(100%)による。		
メッセージ			

その他	http://home.hiroshima-u.ac.jp/asa/ 【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54008002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	アジアの近現代[P4B,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	アジアノキンゲンダイ		
英文授業科目名	Modern History of Asia		
担当教員名	水羽 信男		
担当教員名 (フリガナ)	ミズハ ノブオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K314
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	国民国家、異文化の理解、近代化、アジアの中の日本、ナショナリズム、		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	パッケージ名:文化の交流と多様性 この授業はアジアにおける共生のための課題を歴史的に理解することを目指します。		
学習の成果	学習の成果として期待しているのは、a)国際共生のために必須の基礎的な知識を得る、b)現在のアジアを理解する自分なりの視座を鍛練する、c)歴史的な思考力の育成を目指す、の三点です。		
授業の目標・概要等	現在のアジアを理解するうえでキーとなるのは「国民国家」という概念です。その歴史と現実を理解するために、中国・朝鮮半島における先進資本主義国の侵略と、それに対するナショナリズム運動について、19世紀半ばから20世紀前半までを概観します。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 清朝期における国家と社会 3. アヘン戦争(第一次・第二次)と「華夷」観 4. 太平天国の乱と清朝の近代化の始まり 5. アジアの植民地化と立憲改革の志向 6. 義和団事件 7. 辛亥革命 8. 新文化運動 9. 三一運動 10. 五四運動 11. 北伐 12. 一九二〇年代の東アジア 13. 国民革命と日本 14. 国民政府の成立 15. まとめ <p>全ての講義を終えて、期末試験を実施します。その他の課題については、講義のなかで説明します。</p>		
教科書・参考書等	教科書は指定しませんが、講義に関連した写真や地図・史料と授業のポイントを記したプリントを配布します。参考書は、菊池秀明『中国の歴史10 ラストエンペラーと近代中国』(講談社、2005年)など。その他、講義中に適宜紹介します。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のねらいを自分自身の問題関心から位置づけ直ししてみてください。 2. 中国の前近代の政治構造の特徴について理解しましょう。 3. 英国の中国侵略の原因を理解すると共に、「通説」批判の重要性を実感しましょう。 4. 民衆の権力への抵抗の要因と実相、そして権力の側の対応について理解しよう。 5. 「国民国家」と憲法との関連について、現代日本との比較を通じて考えましょう。 6. なぜ「カルト」集団が広範な支持を集めることができたのか、検討してみましょう。 7. 革命への様々な評価について考え、改めて「通説」批判の必要性を実感しましょう。 8. 儒教批判を展開した当時の青年たちの問題意識を理解しましょう。 9. 朝鮮半島の植民地化とそれに対する抵抗の歴史について総合的に理解しましょう。 10. 当時の国際的な政治情勢のなかで東アジアのナショナリズムについて考えましょう。 11. なぜ北伐軍は破竹の勢いで中国を統一することができたのかを理解しましょう。 12. 中国政治の変動の要因を国内情勢だけでなく、国際関係のなかで考えてみましょう。 13. 20世紀前半の日本政府と日本人にとって、中国が持った「意味」を検討しましょう。 14. 中華民国南京政府の成立の世界史的な意義を理解しましょう。 15. 講義全体をまとめて自分にとってどんな意味があったのか、総括してみてください。 		
履修上の注意 受講条件等	特にありません。		
成績評価の基準等	主として定期試験により行います。他の評価基準については講義中に説明します。		

メッセージ	高等学校で日本史や世界史を学んでいなくても理解できるよう、工夫しています。高等学校とは違う“歴史学”の面白さに触れてみませんか？
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54010001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	文化と自然[P4A,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	ブンカトシゼン		
英文授業科目名	Culture and Nature		
担当教員名	戸田 求		
担当教員名 (フリガナ)	トダ モトム		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総K314
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生	1年生		
授業のキーワード	自然と資源、森と文明、自然との共存、循環型社会		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	本授業では「自然」を「森林」と置き換え、様々な地域で見られる人と森林との関わりの中で育まれてきた文化と文明の形成およびその維持に必要な思想について理解する機会を提供する		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 気候と自然生態系(植生、土壌)の成立 第3回 気候と自然生態系(植生、土壌)の成立 第4回 気候と自然生態系(植生、土壌)の成立 第5回 照葉・硬葉樹林の成立過程と気候変動との関係、照葉・硬葉樹林文化、ブナ林の成立過程と気候変動との関係、ブナ林文化 第6回 照葉・硬葉樹林の成立過程と気候変動との関係、照葉・硬葉樹林文化、ブナ林の成立過程と気候変動との関係、ブナ林文化 第7回 照葉・硬葉樹林の成立過程と気候変動との関係、照葉・硬葉樹林文化、ブナ林の成立過程と気候変動との関係、ブナ林文化 第8回 世界の文明と自然 第9回 世界の文明と自然 第10回 世界の文明と自然 第11回 世界の文明と自然 第12回 世界の文明と自然 第13回 近代日本における文化と自然との関係 第14回 近代日本における文化と自然との関係 第15回 総括 レポート, テスト有		
教科書・参考書等	特に無し		
授業で使用する メディア・機器等	プロジェクター、配付資料・映像(DVD PC)		
予習・復習への アドバイス	特に無し		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	出席6割以上、レポート, テスト		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54011002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	自然環境と地図[P4B,PN6]		
授業科目名 (フリガナ)	シゼンカンキョウトチズ		
英文授業科目名	Natural Environments and Map		
担当教員名	開発 一郎		
担当教員名 (フリガナ)	カイホツ イチロウ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	総K304
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、ディスカッション、学生の発表、野外実習、作業
単位	2	週時間	2
対象学生	全学部生		
授業のキーワード	異文化交流、国際化、自然・風土・資源、自然境界、空間情報		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ名:文化の交流と多様性 位置づけ:文明・文化の誕生・発展・多様性には自然環境によって左右される面は否定できず、異文化交流にも自然環境の多様性が大きく影響している。本講義は本パッケージにおいて自然の視角から文化交流や多様性を基礎的に考察する役割を担っている。		
学習の成果	国際交流や日本の意匠および自然空間情報についての理解と教養が深まる。		
授業の目標・概要等	異文化交流に自然境界がどのように関係してきたかを地球・地域スケールでの自然環境の形成・形態の面から理解し、異文化交流の実際を陶磁器を通して学ぶ。 そのために自然環境の基本的な知識や地図の作成方法とその利用について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 自然境界:自然境界とは 3 自然境界:地形境界 4 自然境界:気候区分/大気境界 5 自然境界:水文境界 6 自然境界:ユーラシア大陸の自然境界 7 自然境界:身近な自然境界 8 地図:地図とは、地図の役割(室内実習、野外授業・実習) 9 地図:地図の原理と自然環境、読図(室内実習、野外授業・実習) 10 地図:主題図の作製(1)(野外授業・実習) 11 地図:主題図の作製(2)(野外授業・実習) 12 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:東西文明の形成と交流 13 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:土と水と陶磁器の文化交流(1) 14 ユーラシア大陸の自然環境と異文化交流:土と水と陶磁器の文化交流(2) 15 おわりに <p>試験・レポートについては後述の成績評価の基準などを参照</p> <p>本授業は基本的には授業計画のように実施する予定であるが、受講状況や全体の理解度他の学習効果を考慮しながら構成や授業内容を若干変更することがある。</p>		
教科書・参考書等	講義(講義中心;板書多用;プリント) 使用する視聴覚教材の種類(ビデオ・DVD・OHP・接写カメラ・パワーポイント等) 野外授業・実習、地図実習 参考書「異文化/I・BUNKA」(培風館)		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	以下のキーワードについての予習・復習が望まれる(括弧内番号が各回に対応する予定であるが、受講状況を考慮して構成を若干変更することがある。)。各回の授業計画の項目について地球科学関係の入門書および下記の参考書を参考にして予習するとともに、授業後の重要な点(指示する)を復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の成り立ち (1) ・陸地の形成 (2)、(3) ・気候・陸水の形成 (3)、(4)、(5) ・地図の作製 (7) ・地図の原理と自然環境 (7) ・三角関数、座標変換(8)、(9)、(10) ・ユーラシア大陸の自然環境(11)、(12) ・陶磁器(13)、(14) ・講義内容全体 (15) 		

履修上の注意 受講条件等	地図実習では三角関数や幾何学等の数学的知識・思考が若干要求される。講義中に地図帳、定規、関数電卓を使用する。
成績評価の基準等	統一課題レポートの評価（全体の40-50%）および野外授業のレポートの評価（全体の20-30%）と授業中の確認小テスト（30-20%）による総合評価
メッセージ	野外授業・実習を行う予定である（実施計画を予備登録の段階の授業中に相談する）。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54012001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	比較芸術文化[P4B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ヒカクゲイジュツブンカ		
英文授業科目名	Comparative Research of Arts and Culture		
担当教員名	青木 孝夫		
担当教員名 (フリガナ)	アオキ タカオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K203
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、視聴覚映像
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	美学・美意識・芸術とは何・文化を問う・比較		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	世界の中で生きる人間の根源的な営みに芸術文化から接近する。芸術は文化の粋として人間の営みを最もよく実現している。その芸術文化のみならず生活文化を含めて、トータルに文化の問題を考え、人間と世界の根源的な姿に迫る。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	芸術や美意識に焦点を当て、芸術と文化から人間に関する根本的問題を考える。具体的な作品の分析のみならず、古典的な書物や有名な言説を批判的に分析し、現代に於ける芸術文化を解明し、また文化の中に生きる人間の根本的な姿を考える。		
授業計画	<p>この講義は、日本文化の中心にある美意識や感性を、比較を通して解明しようとする。その際、特色を解明するために比較の対象・対照として、欧米や東アジアなども話題に応じて触れる。</p> <p>大切なのは、個性や独創性や創造性や無心や無我や美といった芸術や美意識に関する思想や概念が、宙に浮いていないこと、換言すれば、深く歴史や社会に根ざしていることである。芸術や美意識の思想的な土壌を解明し、芸術と我々の人生や社会をつなぐことにしたい。</p> <p>受講者に求められるのは、常識的な教養で結構である。芸術や美についての名著解題も何回か講義に織り込まれ、全体が展開する。</p> <p>2013年度は、日本的芸術観の生成について講義する。日本の芸術観は、近代になって西欧から輸入された側面がある。その一方で、千年にわたり、中国から影響を受けてきた。しかも、日本は、その歴史と風土を通じて、独自の芸術と芸術観を形成してきた。その多面的な芸術観を、我々は知らず識らずの内に生きている。例えば、現代に於いて尊重される個性は、日本社会に根付いて、まだ百年に過ぎない。それでは、それ以前の芸術、また人の生き方の指標は何であったか。このようにして浮かび上がる新旧の芸術観は、社会の中に、また我々の中で生きている。芸術を通しての解明の射程は広い。詳しくは、講義の開講時に示す。</p>		
教科書・参考書等	谷崎潤一郎『陰翳礼讃』 九鬼周造『「いき」の構造』 佐々木健一『美学辞典』 今道友信『美について』		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料，視聴覚映像		
予習・復習への アドバイス	講義中心の授業である。芸術という単語が入っているので、具体的な芸術作品を扱うことが中心か、と誤解されるかもしれない。もとより、具体的な芸術作品にも言及する。しかし、理解の主眼は個々の芸術作品にはない。芸術に限らず文化や思想を取り上げて、その文化や思想に纏わるもろもろの問題を事例を紹介しつつ考えていく。著名な芸術作品や芸術や文化を論じたテキストが取り上げられることになる。必要な予習・復習は毎回、講義のおりに指示することにした。		
履修上の注意 受講条件等	平常点と試験などとの組み合わせ。毎回という訳ではないが、小テストや批評・感想等を課す。それによって理解度や興味のありようをみる。		
成績評価の基準等	平常点の内実は、出席の確認を兼ねたミニ・試験やミニ・レポートである。しかし試験が評価の中心である。		
メッセージ	講義中心の授業である。板書は多用せず、プリント資料を使用する。格別の教科書はないが、大事もしくは興味深い文献はたくさんあるので、随時、講義の中で、紹介していく。学生諸君の理解が受動的にならないように、質問コーナーを設けるなど、相互のコミュニケーションも活用する。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54014002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	岩石・資源と人間[P4A,PN7]		
授業科目名 (フリガナ)	ガンセキ・シгентニンゲン		
英文授業科目名	Rocks,Resources and Human Being		
担当教員名	於保 幸正		
担当教員名 (フリガナ)	オホ ユキマサ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K313
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心であるが、学生間の対話を重要視する。
単位	2	週時間	2
対象学生	主に1年生		
授業のキーワード	文化の多様性, 自然・風土, 資源, 紛争, ホモ・サピエンス		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性 この科目は文化の形成の素材となる岩石・資源の使い方を通して文化の多様性を認識すると共に、近代化の過程で起きた、または、起きつつある問題について資源の立場から考察する。		
学習の成果	現代文明の歴史および現在の文化の成り立ちについて、ホモ・サピエンスとは何か、人類はどのようにして文化を形成してきたか、資源を通じた国際関係のあり方などの観点から学習し、現代社会の課題について理解する。また、学問の広がりについても理解する。		
授業の目標・概要等	古代から現代に至るまで人間は岩石・資源をどのように用いてきたのか、また、現在の人類社会のなかで岩石・資源はどのような役割を持っているかについて理解を深める。		
授業計画	<p>第1回 序・講義の概要</p> <p>第2回 ホモ・サピエンスの特徴</p> <p>第3-7回 文化の形成における岩石の役割と文化の地域性 - 人間はどのように岩石を使ってきたか(岩石と人間, 陶器と人間), 物はどのような経路をたどって伝わっていったか -</p> <p>第8-11回 金属資源の利用(青銅, 鉄, 金, 銀, 水銀などを使用してきた歴史) - 青銅とは, 地球における鉄の存在意義, 古代人はどのように金属を用いてきたか, など -</p> <p>第12-14回 エネルギー資源の活用と歴史 - 石炭, 石油, ガスハイドレート, ウランなど -</p> <p>第15回 資源と紛争, 南極における資源(南極条約)</p> <p>数回のレポート提出してもらう予定。レポートの作成を通して文章の書き方を学んで欲しい。 最後に試験を行う(各自の考え方がどのようにまとまっているかを重視する)</p> <p>この授業では、地理、歴史、文化、地球などを総合的に理解することが必要であり、分からないことについては各自調べること。授業の中で作業シートを配付するので、理解したことを自分の言葉で書いてもらいたい。</p>		
教科書・参考書等	特に教科書はないが、「異文化/・BUNKA」(培風館)などパッケージ別科目に係る本があるので、それを読んでおいて欲しい。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	<p>第2回 我々ホモ・サピエンスの特徴について整理しておくこと。対話を通して理解を促す予定である。</p> <p>第3-7回 黒曜石, 粘土, レンガ, セラミックスにがどのように使用されてきたか, あらかじめ調べておくこと</p> <p>第8-11回 青銅, タタラ製鉄とは何か調べておくこと。アメリカの西海岸ではどうしてスペイン語の地名が存在するか, 考えておくこと。</p> <p>第12-14回 人類はどのようなエネルギー資源を使用してきたか, 将来どのような方法でエネルギーを得て行くのかまとめておくこと。</p> <p>第15回 南極大陸の地図をみておくこと。</p>		
履修上の注意 受講条件等	何が分からないか, 何が問題か自問自答し, 自分なりの考え方をもち努力をして, 授業中に積極的に自分の考えを述べること。		
成績評価の基準等	レポート(20%), 作業シート(20%), 定期試験(60%)で評価を行う。		
メッセージ	世の中は知っているようで, 知らないことが多い。分からないこと, 興味を抱いたことは積極的に自分で調べよう。パッケージ別科目は自分で考えてことおもしろい。		

その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54015002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	英語圏の文学と社会[P4A,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	エイゴケンノブンガクトシャカイ		
英文授業科目名	Literature and Society of the English-speaking Countries		
担当教員名	大地 真介		
担当教員名 (フリガナ)	オオチ シンスケ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総K109
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	アメリカ、文学、社会、文化、映画		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性		
学習の成果			
授業の目標・概要等	アメリカの文学作品を原作とする映画を、人種・階級・ジェンダーの観点から考察し、アメリカ文化・社会について理解を深める。具体的な作品としては、Lyman Frank Baumの『The Wonderful Wizard of Oz』、Mario Puzoの『The Godfather』、Arthur Millerの『The Crucible』、F. Scott Fitzgeraldの『The Great Gatsby』等を扱う。		
授業計画	<p>第1回：イントロダクション 第2回：レポートの出題。Lyman Frank Baumの『The Wonderful Wizard of Oz』。 第3回：『The Wonderful Wizard of Oz』 第4回：『The Wonderful Wizard of Oz』 第5回：Mario Puzoの『The Godfather』 第6回：『The Godfather』 第7回：『The Godfather』 第8回：Arthur Millerの『The Crucible』 第9回：『The Crucible』 第10回：『The Crucible』 第11回：F. Scott Fitzgeraldの『The Great Gatsby』 第12回：『The Great Gatsby』 第13回：『The Great Gatsby』 第14回：『The Matrix』 第15回：まとめ</p> <p>レポートを最後の授業までに提出する。</p>		
教科書・参考書等	奥村みさ、スーザン・K・バートン著、『映画でわかるアメリカ文化入門』、松柏社、2520円。		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、映像（DVD）		
予習・復習への アドバイス	毎回、授業で学んだことを復習すること。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	レポート（約30%）、平常点（約40%）及び出席率（約30%）で評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	54016002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	国際社会と法[P4B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	コクサイシャカイトホウ		
英文授業科目名	International Society and Law		
担当教員名	中坂 恵美子		
担当教員名 (フリガナ)	ナカサカ エミコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	総K311
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、ディスカッション、学生の発表
単位	2	週時間	2
対象学生	1, 2年生		
授業のキーワード	国際化、グローバリズム、法		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第4パッケージ:文化の交流と多様性 文化的多様性をもった諸国家から構成される国際社会を法的な側面から分析する。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	国際法は国家間の法である。国家はそれぞれ様々な思惑をもち立法に携わり執行を行うが、そこにはそれぞれの国の価値観や利害が反映される。受講生はそのような背景を第4パッケージの他の授業と関連付けながら当授業をうけ、国際関係のニュースを理解するのに必要な教養教育レベルの国際法の知識をつけることが目標である。		
授業計画	第1回 国際法の基礎 第2回 武力行使禁止と自衛権 第3回 集団安全保障 第4回 主権・自決権と不干渉原則 第5回 国家・政府の誕生と内戦 第6回 国家管轄権 第7回 執行管轄権の制限 第8回 国家領域 第9回 領域使用 第10回 外国人法 第11回 国際人権法 第12回 国際人道法 第13回 国際刑事法 第14回 国際経済法 第15回 質問と回答 試験実施		
教科書・参考書等	山形英郎『国際法入門(仮題)』法律文化社、2014年4月		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	第1回～第9回で教科書の第1章～第9章、第10回～第14回で第14章～第18章を取り上げます。 教科書には、各章冒頭にQuizが、章末にはSummaryがありますので、それぞれ予習復習の際に役立ててください。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	試験(80%)及び受講態度(20%)予定。但し、受講生数等により変更の可能性あり。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。			